

ホロンバイル盟ウールト系蒙古語方言  
—音韻と基礎語彙—

The ø:ld Dialect of Mongolian in Khulunbuir  
—phonology and basic vocabularies—

吉池孝一著

2009年11月

目次

序	2
第1部 音韻	3 ~ 19
第2部 基礎語彙	20 ~ 52
参考文献	53 ~ 54

## 序

本書は次の三本をまとめたものである。

- ・「ホロンバイル盟ウールト系の一蒙古語方音」『愛知県立大学外国語学部紀要（言語・文学編）』1999年3月。
- ・「ホロンバイル盟ウールト系の一蒙古語方言の基本語彙(1)」『愛知県立大学外国語学部紀要（言語・文学編）』2000年3月。
- ・「ホロンバイル盟ウールト系の一蒙古語方言の基本語彙(2)」『愛知県立大学外国語学部紀要（言語・文学編）』2001年3月。

これは1996年から1998年の間の調査に係るもので、紀要に書いた後、心許ない部分が多々目に付くため、そっとしておいたものである。最近になって、あるいは何かの役に立つ部分もあるかもしれないと考え直し、一本にまとめた次第である。

なお、同一の音を意図しているのであるが、異なるフォントを利用している個所がある。いずれ統一する予定であるが、しばらくの間はこれでお許し願いたい。

## 第 1 部 音韻

[中文提要] 發音合作人巴伊熱先生，生在內蒙古自治區呼倫貝爾盟伊敏公社（該公社在伊敏河中流地域），是  $\theta:ld$  人，長期在呼倫貝爾盟生活，一九九六年來日本留學，調查時為二十四歲至二十六歲。本文的材料是作者于一九九六年至一九九八年在東京調查，記錄的。巴伊熱先生的個人語言的語音特徵如下：

- （一）陰性短元音  $\theta$ （書面語  $\delta$ ）和  $u$ （書面語  $\dot{u}$ ）不加區分，一律合併為  $u$ 。
- （二） $x$  處在  $\eta$  之後讀作  $k$ 。
- （三）書面語（ $\check{c}$ ）分化為兩個輔音：（ $\check{c}$ ）【後邊帶有除  $i$  以外的元音】變為  $s$ ，（ $\check{c}i$ ）變為  $tʃ$ 。
- （四） $i$  在詞首時不發生“轉折”現象。

### 1. はじめに

巴伊熱（バヤラ）氏は内モンゴル自治区呼倫貝爾（ホロンバイル）盟出身の留学生である。伊敏（イミン）河中流の伊敏公社で生まれ、その後転居はしたものの成人するまでホロンバイル盟を離れることはなかった。氏は自らをオイラートの一部族、ウールト（発音は  $\theta:ld$ ）人であると称する。父親はウールト人、母親はブリヤート人。学校では内モンゴルの標準的な言葉を使用したが高家庭内では主に父親の系統の言葉を使っていたという。蒙古文語にも良く通じている。漢語は小学生の時から習い始め現在では流暢に話す。今回（1996年から1998年）の調査も漢語によって行われた。語彙の採取にあたってはバヤラ氏自身が家庭を中心とした生活圏の中で実際に使用したことのある所謂「使用言語」を極力採取したつもりであるし、又そのことをバヤラ氏にもお願いした。氏は自身の言葉を評して、父親と

もイミン河流域の人々とも異なる部分があり一層標準的な蒙古語となっていると述べているが、その発音は服部(1936)(1937a)により報告された「オイロト」方言(本稿のウールトに相当する。これ以後括弧を付し「オイロト」とした場合本稿のウールトと同義)<sup>2)</sup>の音特徴と一致しており(第3節参照)、バヤラ氏が如何なる音系を持っているかを概観することも無駄ではないと考える。そこで氏の言葉を当面ウールト「系」の蒙古語方言と称し、先ずその発音についてまとめてみた次第である。なお、服部氏は一連の報告の中で「オイロト」方言に簡単に触れただけであり体系的な記述はない。他に当該方言について報告がなされているかどうか寡聞にして知らない<sup>3)</sup>。

## 2. 音韻の粗描

発音は「簡略な」音声表記により、a, ε, ɔ の如く裸で記すことにする。音韻的な処理を施した部分もあるが体系を十分に考慮した上のものではない。このような簡略表記であっても、当該方言の概略を知るといふ点に目標を限定するならば有用であると考え。なお、簡略表記の説明のためやや精密な音声表記を用いるが、そのような場合 [a][ε][ɔ] 等で示すことにする。調査にあたって、これはやや精密な表記に関わることであるが、インフォーマントが同一の音であると報告した場合であっても調査者がはっきりと聞き分けることのできた音声は異なる音声記号を用いて表記した。一方、音声環境からみて理論的には異なる音となるはずのものであっても調査者自身が聞き分けることができず、且つインフォーマントも同一の音であると報告した場合は只一つの音声記号を用いて表記した。

[b, m, n...] 等の子音の口蓋化音は [b<sup>j</sup>, m<sup>j</sup>, n<sup>j</sup>...] の如く表記する。なお、第2音節以降の短母音は中舌化するがその聴覚印象は前後の音環境により一様ではない。この中舌化母音の音声表記には確信の持てない部分があるため、第1音節の母音の表記に使用した音声記号を用いて第2音節以降の短母音をも表記することにした。

### 2-1. 母音

#### 2-1-1. 短母音

第1音節の短母音の簡略表記とやや精密な音声表記は以下の通りである。

男性母音	a	ε	ɔ	o	i
女性母音	ɜ			u	

1. a : [a] [am]口、[dzaɸsar]すきま、[max]肉

2. ε : [ε] [εm]生命、[dzεw]小舟、[nεrεŋ]狭い  
       : [e] [bʲelsak]指輪、[mʲeŋk]千、[tʃʲedax]できる
3. ɜ : [ɜ] [ɜm]雌、[xɜl]舌・言葉、[nɜr]名前
4. i : [i] [im]目印（家畜の耳に付ける）、[tʃʲix]耳、  
       [ila:]蚊
5. ɔ : [ɔ] [ɔt]星、[nɔm]本、[xɔnʲ]羊
6. o : [o] [os]水、[sos]血、[onʲ]パオの樽木
7. ʉ : [ʉ] [ʉr]負債・種子、[ʉt]羽・正午、  
       [tʲʉr]国家・臨時の

男性母音にはaの他にεという母音が認められる。no.7のʉは、ハルハ方言では以下の如く(θ)と(Υ)の2種に区別されるわけであるが、バヤラ氏にあっては、蒙古文語の(ö)やハルハ方言の(θ)に相当する音はʉに合流する。なおこれ以後ハルハ方言のキリル文字表記及び蒙古文語形は全てLessing(1995)に拠り、蒙古文語形のローマ字転写およびキリル文字は( )で括りそれと明示する。

- (θ)・・・(θp)負債   (θд)羽       (тθp)国家  
 (Υ)・・・(Υp)種子   (Υд)正午       (тΥp)臨時の

## 2-1-2. 長母音

長母音の簡略表記とやや精密な音声表記は以下の通りである。

男性母音	a:	ε:	ɔ:	o:	i:
女性母音	ɜ:		θ:	ʉ:	

1. a: : [a:] [a:w]お父さん、[xa:n]どこ、[otʲa:]煙
2. ε: : [ε:] [ε:l]アイル、[xε:tʃʲ]はさみ、[ewe:]お母さん
3. ɜ: : [ɜ:] [ɜ:rɜx]捜す、[xɜ:l]家畜の胎児、[tʲɜmɜ:]らくだ
4. i: : [i:] [i:m]このような、[ʃi:r]動物のすねの部分、

[bi:]私

5. ɔ: : [ɔ:] [xɔdɔ:t]胃、[t'ɔ:]数
6. o: : [o:] [o:l]山、[oro:l]唇、[mo:]悪い
7. e: : [e:] [e:t]上り坂、[xə:s]泡、  
[t'e:]指尺（親指と中指）
8. u: : [u:] [u:t]扉、[t'ulxu:r]鍵、[du:]弟、妹

短母音では蒙古文語(ö)やハルハ方言(θ)に相当する音はuに合流するが、長母音ではe:とu:の両者がそろっている。

### 2-1-3. 二重母音

二重母音の簡略表記とやや精密な音声表記は以下の通りである。

1. ae : [aɛ̃] [xaɛ̃ra:r]海拉爾（地名）、[maŋlaɛ̃]優勝
2. ɔi : [ɔĩ] [ɔĩ]森、[mɔĩl]漿果（果実）
3. oi : [oĩ] [oĩlax]泣く、[boĩl]駱駝の鼻に通す輪
4. ui : [ui] [uimɜx]騒ぐ、[xuıs]へそ

no.1のaeは蒙古文語の(ayi, ai)に対応する。これは長母音の[ɛ:]となるのが普通であるが一部の比較的堅い意味を持つ単語では[aɛ̃]となる。

以上の他に以下の母音がある。

[uɣœ]ない、[xutʃ'gœ]力がない、[tʃ'imɜ:gœ]静かな、  
[p'ingœ]リンゴ

問題の母音は[œ]である。[uɣœ]、[xutʃ'gœ]、[tʃ'imɜ:gœ]などの『無い』という意味を含む一連の語及び漢語からの借用語[p'ingœ]にみられ、[g]と[œ]の間には微かながら渡り音の[u]がある。これを第8番目の短母音とするか、それとも渡り音の[u]があるので、何らかの二重母音とすべきであるか、現在のところ判断を保留している。

## 2-2. 子音

子音の簡略表記とやや精密な音声表記は以下の通りである。

	唇音	歯茎・硬口蓋音	軟口蓋音
閉鎖音 無声	p	t (t <sup>j</sup> )	k
有聲	b b <sup>j</sup>	d (d <sup>j</sup> )	g g <sup>j</sup>
破擦音 無声		tʃ	
有聲		dz dʒ	
摩擦音 無声	(f)	s ʃ	x x <sup>j</sup>
有聲	w	j	
側面音		l l <sup>j</sup>	
ふるえ音		r r <sup>j</sup>	
鼻音	m m <sup>j</sup>	n n <sup>j</sup>	ŋ

注：( )は外来の借用語にみられる子音

### 2-2-1. 一般的な子音

1. b : [b] [boda:]穀物、[bus]モンゴル服の帯  
 [β] [ɔlβɔk]座布団、[ʃurβus]鞆帯や臑  
 [w] [ɔwɔ:]オポー(石の塚)、[a:w]お父さん  
 [ϕ] [dzaϕsar]すき間
2. d : [d] [dɛ:r]馬の鞍傷、[ɔdɔ:]今  
 [t] [u:t]扉 ([o:t<sup>ʰ</sup>]『袋』と比較せよ)、[ɔt]星
3. g : [ɣ] [ɣɔl]河、[ɣar]手、  
 [q] [baq]小さい、[saq]時間  
 [g] [gɜr]家、[gɯ:]雌馬  
 [k] [nɜk]1、[t<sup>ʰ</sup>ɜrɜk]車  
 [ɸ] [t<sup>ʰ</sup>ɔɸɔ:]鍋、[saba:ŋ]白い  
 [ɣ] [t<sup>ʰ</sup>ɜɣɜ:t]それから(接続詞)



4. dz : [dz] [dzam]道、[xadza:r]馬の轡や手綱  
[ts] [xurts]スコップ、[ɔlts]利益
5. dʒ : [dʒ] [dʒɔlɔ:]馬車の手綱、[andʒis]すき(農具)  
[tʃ] [nɛ:tʃ]友達、[tʃ'ɜ:tʃ]胸
6. p : [p'] [p'at xar]真っ黒な、[p'a:s]バス、  
[jɔp'ɔ:ŋ]日本
7. f : [f] [faʃis]ファシスト、[fra:ŋs]フランス
8. t : [t'] [t'ɔʋɔ:]鍋、[o:t']袋
9. k : [k', q'] [aŋk'ax]喉が渴く、[xaraŋq'o:]暗い  
[k'inɔ:] 映画、[uŋk'ɜx]口に含む
10. x : [x] [xɔl]遠い、[max]肉  
[x] [xɜl]舌、[tʃ'ix]耳  
[ç] [çi:x]する、[çi:]気体
11. tʃ : [tʃ'] [tʃ'i:]おまえ、[xɛ:tʃ']はさみ
12. s : [s] [sap]月、[ars]皮
13. ʃ : [ʃ] [ʃɜ:s]小便、[dʊʃ]金床
14. m : [m] [max]肉、[am]口
15. n : [n] [nɔm]本、[ɜn]これ、[andʒis]すき(農具)
16. ŋ : [ŋ] [xʊŋ]人、[aŋga:x](傷口や口などが)開く
17. l : [l] [lam]ラマ僧、[ɜmɜ:l]鞍
18. r : [r] [ara:dʒo:]ラジオ、[a:ro:l]乾かした凝乳、  
[nar]太陽
19. j : [j] [jama:]山羊、[dzaja:]運命、[naj]80
20. w : [w] [wa:r]瓦、[wa:daŋ]ふろしき

no.9の k[k', q'] は、[k'inɔ:]などの外来語及び固有語ではŋの後に現れる。このŋの後のkは明瞭なk[k', q']であり、本人もkであることを意識して発音している。これを試みに無声摩擦音のx[x, x]で発音してみたが、バヤラ氏より不可であるとの回答を得た。なお、no.10の[x]と[x]の用い方であるが、第2音節以降で短母音と接する場合両者の区別は不明瞭となるため、本稿ではその様な場合[x]で記すことにした。

## 2-2-2. 口蓋化子音

21. b<sup>j</sup> : [b<sup>j</sup>] [b<sup>j</sup>ergæ] 体力がない、[b<sup>j</sup>elsak] 指輪  
22. d<sup>j</sup> : [d<sup>j</sup>] [d<sup>j</sup>enbɔ:l] 懐中電灯（漢語「電棒兎」より）  
23. g<sup>j</sup> : [g<sup>j</sup>, v<sup>j</sup>] [g<sup>j</sup>elaldzax] きらきら光る、[ɛv<sup>j</sup>] ヨモギ  
24. t<sup>j</sup> : [t<sup>j</sup>ʰ] [t<sup>j</sup>ʰa:tʰar] 劇場  
25. x<sup>j</sup> : [ç] [ça:q] 草の一種（家畜の飼料にする）、  
[çero:] 霜  
26. m<sup>j</sup> : [m<sup>j</sup>] [m<sup>j</sup>ɛŋk] 千  
27. n<sup>j</sup> : [n<sup>j</sup>] [n<sup>j</sup>elx] 赤ん坊、[xɔn<sup>j</sup>] 羊  
28. l<sup>j</sup> : [l<sup>j</sup>] [xal<sup>j</sup>o:] かわうそ、[ɛl<sup>j</sup>] どれ  
29. r<sup>j</sup> : [r<sup>j</sup>] [ar<sup>j</sup>a:tʰaŋ] 野獣、[ar<sup>j</sup>o:ŋ] 清潔な

以上の口蓋化子音の他、母音[i]の直前の子音も口蓋化するが簡略表記ではその口蓋化は記さないことにする。したがって、[çi:x]『する』、[çi:]『気体』などは、xi:x, xi: のように記す。

### 3. 音特徴

#### 3-1. 無声破擦音の対応

服部(1936)(1937a)には内モンゴルホロンバイル地方の蒙古語諸方言の状況が報告されている。それによるとこの地方には、陳バルガ、新バルガ、「オイロト」(本稿のウールトに相当する)、ブリヤート、ダグール、新バルガ正藍旗(ハルハ系)の七つの方言があった。その中の「オイロト」方言であるが、担い手である「オイロト」人は500名前後、イミン川中流域の「オイロト」人部落が中心地域であるという。なお、この地域は本稿のインフォーマントであるバヤラ氏が生まれ育った地でもある。服部氏の一連の報告では「オイロト」方言について簡単に触れるだけであるが、ハルハ方言に近く、ホロンバイル一帯の主要な蒙古語方言である陳バルガ方言や新バルガ方言との違いは少ないらしい。服部(1937a)によると「一般に、ハルハ方言あるいは新バルガ正藍旗方言のtsにブリヤート・陳バルガ・新バルガ・オイロト諸方言のsが対応し、ハルハ方言・オイロト方言のtʃにブリヤート・陳バルガ・新バルガ諸方言のʃが対応する」とある。この関係を整理して示すと以下の通りである。

蒙古文語	ハルハ/新バルガ <sup>6</sup> 正藍旗	「オイロト」	陳バルガ <sup>6</sup> / 新バルガ <sup>6</sup>	ブリヤート
(č+i以外の母音)	ts	s	s	s
(či)	tʃ	tʃ	ʃ	ʃ

そこでバヤラ氏はどの様であるかと言うと、次に示すように服部氏の「オイロト」方言と同様の特徴を持つ。なお、以下の語例に就き文語形が数種類に渡る場合、本項目と直接関連すると思われる語形のみを提示した。

ア。蒙古文語(č+i以外の母音)：ハルハ方言 u：バヤラ氏 s

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(čad-)	ц а д а х	sadax	満腹する
(čay)	ц а г	sag	時間、 時計
(čayan)	ц а г а а н	saga:ŋ	白い
(čayasu-n)	ц а а с	sa:s	紙
(čarčaqai)	ц а р ц а а х а й	sarsandag	いなご、 ばった
(času-n)	ц а с	sas	雪
(čayi-)	ц а й х	se:x	白くなる
(čečeg, sečeg)	ц э ц э г	sɜsɜg	花
(čögen)	ц ӨӨ н	se:ŋ	少ない
(ničügün)	н Ү ц г э н	nɯsxŋŋ	裸の
(naγaču)	н а г а ц	naxs	母親の弟 と妹
(qačar, qačir)	х а ц а р	xasar	頬
(qančui, qamčui)	х а н ц у й	xams	そで
(qubčasu-n)	х у в ц а с	xobsos	衣服
(quča-n)	х у ц	xos	種羊
(quča-, quči-)	х у ц а х	xosox	(犬が)吠え る。

イ。蒙古文語(či)：ハルハ方言 ч：バヤラ氏 tʃ

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(ači-)	а ч и х	atʃix	(車に荷を) 積む
(ačiya-n)	а ч а а	atʃa:	荷物
(ayilčin)	а й л ч и н	ε:ltʃin	客
(biči-)	б и ч и х	bitʃix	書く
(bičig)	б и ч и г	bitʃig	書物

(či)	ч и	tʃi:	おまえ
(čida-)	ч а д а х	tʃɛdax	できる
(čiki-n)	ч и х	tʃix	耳
(čiki-)	ч и х э х	tʃixɛx	詰め込む
(čilayū-n)	ч у л у у	tʃolo:	石
(čilüge-n)	ч Ө л Ө Ө	tʃulø:	ひま
(čimüge-n)	ч Ө м Ө г	tʃimɜg	骨髄
(čina-)	ч а н а х	tʃɛnax	煮る
(čingγa)	ч а н г а	tʃɛng	きつい
(činua)	ч о н о	tʃɔn	狼
(čir-)	ч и р э х	tʃirix	引く
(döči-n)	д Ө ч	dutʃ	40
(ebčigü-n)	Ө в ч ҮҮ	ɜbtʃu:	胸骨のあ たり
(ebedčin)	Ө в ч и н	ɜbtʃin	病気
(emči)	э м ч	ɜmtʃ	医者
(γučī-n)	г у ч	gotʃ	30
(iče-, iči-)	и ч и х	itʃix	恥じる
(kerči-)	х э р ч и х	xɜrtʃix	(包丁など で)切る
(kōbči)	х Ө в ч	xubtʃ	弓のつる
(malčin)	м а л ч и н	malʃin	牧民
(nabči-n)	н а в ч	nabtʃ	葉
(oči-)	о ч и х	ɔtʃix	行く
(qayučin)	х у у ч и н	xo:tʃin	古い
(qayiči-n)	х а й ч	xɛ:tʃ	はさみ
(qayičila-)	х а й ч л а х	xɛ:tʃlɛx	鋏で切る
(tobči)	т о в ч	tɔbtʃ	ボタン

ウ。上記以外

・蒙古文語(č+i以外の母音): ハルハ方言 ц: バヤラ氏 tʃ

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(burčay, buyurčay)	б у у р ц а г	bɔrtʃɔ:	豆
(čabčiči-)	ц а в ч и х	tʃabtʃix	ばっさり 切る
(čegejši-n, čigejši)	ц э э ж	tʃɜ:dʒ	胸
(čerig, čirig)	ц э р э г	tʃirig	兵士
(ongyuča)	о н г о ц	ɔŋgɔtʃ	船

・ 蒙古文語と方言が対応しないもの

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(čisu-n)	ц у с	sos	血
(küčü-n)	х ү ч	xutʃ	力

・ その他

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(bilüčüg, bilisüg)	б я л ж и г	b <sup>j</sup> ɛlsag	指輪

「蒙古文語(č+i以外の母音)：ハルハ方言 ц /ts/：バヤラ氏 s」及び「蒙古文語(či)：ハルハ方言 ч /tʃ/：バヤラ氏 tʃ」という対応はほぼ成立し、服部(1937a)の「オイロト」方言とバヤラ氏とは無声破擦音の方言間の対応において同じ特徴を持つとすることができる。清格爾泰(1979, p. 109)や栗林(1989, p. 1432)には蒙古文語の č に対応する内蒙古語諸方言の音形を表示してあるが、バヤラ氏と同様の対応を見せる方言はない。このような方言の比較に於いて本資料は一定の役割を果たすものと考えられる。なお、上記ウの如く幾つかの例外と思われるものもあるが、これらは諸方言との比較対照を経た後に解釈されるべきものであり本稿では言及する準備がない<sup>4)</sup>。

### 3-2. 「iの折れ」<sup>5)</sup>

服部氏の一連の報告には「オイロト」方言の「iの折れ」の記述は無い。この点に就いてバヤラ氏と比較することができないのは残念であるが、氏の「iの折れ」には以下に示すように興味深い特徴がある。なお提示した語例は全て第2音節に母音(a)のある場合に限った。

#### 3-2-1. 語頭の「i-の折れ」

ア。蒙古文語(i-)：ハルハ方言 я-：バヤラ氏 i-

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(idam quruγu-n)	я д а м х у р у у	idэм хоро:	薬指
(iĵara-)	я з р а х	idzrax	擦りむける
(ilaya-n)	я л а а	ila:	蚊
(ildam)	я л д а м	ildэм	用事
(ilĵara-)	я л з р а х	ildzrax	柔らかくなる、腐る
(inay)	я н а г	inag	(男女間の)愛情
(inĵaya)	я н з г а (ᠮᠠ)	indzag	鹿の子
(inčaya-)	я н ц г а а х	insga:x	馬がいなくな
(irĵayi-)	я р з а й х	irdze:x	歯をむき出す
(irĵayar)	я р з г а р	irdzgar	出っ歯の
(idqa-)	я т г а х	itxax	勧める

イ。蒙古文語(i-)：ハルハ方言 я-：バヤラ氏 ja-, jε-

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(imaya-n)	я м а а	jama:	山羊
(ira-)	я р а х	jεrεx	(布団や本などを) めくる
(ilya-)	я л г а х	ilgax~jelgax	区別する

以上、イのように少数ながら例外と思われるものもあるが、バヤラ氏にあっては、語頭に於いて「iの折れ」は起こらないのが普通である。

### 3-2-2. 子音の後の「-i-の折れ」

ア。蒙古文語(-i-) : ハルハ方言 -я - : バヤラ氏 -□<sup>j</sup>ε-

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(bilqalja-)	б я л х а л з а х	b <sup>j</sup> εlxaldzax	液体が満ちる
(milaya-)	м я л а а х	m <sup>j</sup> εla:x	新物を祝福する
(mindasu-n)	м я н д а с	m <sup>j</sup> εndas	絹糸
(mingya-n)	м я н г а	m <sup>j</sup> εng	千
(niyta)	н я г т	n <sup>j</sup> εxt	緊密な
(nilqa)	н я л х , н и л х	n <sup>j</sup> εlx	赤ん坊
(nisal-, nislal-)	н я с л а х	n <sup>j</sup> εslax	指で弾く
(gilayar)	г я л г а р	g <sup>j</sup> εlgar	きらきらした
(gilbalja-)	г я л в а л з а х	g <sup>j</sup> εlbaldzax	派手な
(kimda)	х я м д	x <sup>j</sup> εmd	安い
(kirayu-n)	х я р у у	x <sup>j</sup> εro:	霜

イ。蒙古文語 (či-, j̄i-, si-) : ハルハ方言 ч а -, ж а -, ш а - :



バヤラ氏 tʃɛ-, dʒɛ-, ʃɛ-

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(čida-)	ч а д а х	tʃɛdax	できる
(čina-)	ч а н а х	tʃɛnax	煮る
(čingγa)	ч а н г а	tʃɛŋg	きつい
(ǰira-n)	ж а р	dʒɛr	60
(sinaya)	ш а н а г а	ʃɛnag	杓子

ウ。蒙古文語 (si-) : ハルハ方言 ш а - : バヤラ氏 ʃa-

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(sibar)	ш а в а р	ʃabar	泥
(sira)	ш а р	ʃar	黄色
(sira-)	ш а р а х	ʃarax ~ ʃɛrax	(火で)あぶる
(sirqa-n)	ш а р х	ʃarax	傷口

エ。蒙古文語 (-i-) : ハルハ方言 - a - : バヤラ氏 -a-

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(ǰiya-)	з а а х	dza:x	教授する
(ǰiyasu-n)	з а г а с	dzaxs	魚
(miqa-n)	м а х	max	肉
(niya-, naya-)	н а а х	na:x	貼る

オ。蒙古文語 (si-) : ハルハ方言 ш а - : バヤラ氏 ʃi-

蒙古文語	ハルハ方言	バヤラ氏	語義
(sitaya-)	ш а т а а х	ʃita:x	燃やす

以上、オのような例外と思われるものもあるが、バヤラ氏にあつては、子音の後に於いて「iの折れ」が起こるのが普通である。

#### 4. おわりに

以上の語例に拠り、バヤラ氏のウールト系蒙古語方言の音特徴をまとめると以下の通りである。

1. 短母音で蒙古文語 (ö) やハルハ方言 (θ) に相当する音が  $\mathfrak{u}$  に合流する。
2.  $\eta$  の後に子音  $k$  が出現する。
3. 蒙古文語 ( $\check{c}+i$  以外の母音) やハルハ方言  $\mathfrak{u}$  に  $s$  が対応し、蒙古文語 ( $\check{c}i$ ) やハルハ方言  $\mathfrak{q}$  に  $tʃ$  が対応する。
4. 蒙古文語 ( $i-$ ) やハルハ方言  $\mathfrak{y}-$  で始まる語には  $i-$  が対応しており、語頭では「 $i$ の折れ」は起こらない。

3及び4には幾つかの例外と思われるものもあるが、これらは諸方言との比較を経た後に解釈されるべきであり本稿ではそれに言及する準備がない。ここでは語例を分類し提示するにとどめた。なおバヤラ氏の基礎語彙も何らかの機会に公表する予定である。

〈注〉

- 1) 語彙の採取にあたって道布(1983)・栗林(1981)(1989a)・一ノ瀬(1992)を参照した。
- 2) 服部(1936)(1937b)によると「オイロト人」はイミン河中流域に居住し自らを  $[\text{ö:lt}]$  と称するという。この点、本稿のバヤラ氏も同様である。更に本稿第3節で述べるように両者の発音の特徴も一致する部分があることからみて、バヤラ氏を服部氏の「オイロト人」につながる種族であるとして間違いないと考える。なお、服部氏の「オイロト」というカタカナ表記であるが、服部(1937b)の「付記」によると、「オイロト人」は  $[\text{ö:lt}]$  と自称する種族を指すものでホロンバイルにおける日本式呼称によったものであり、カルムイク人をオイロト(oiro)人あるいはオイラト(oirat)人と呼ぶことがあるがこの oiro と混同されるべきではないとあり、当時の日本式

呼称に拠ったことがわかる。本稿では、口語音に比較的近いウールトというカタカナ表記によりバヤラ氏の所属する種族及び言語を呼ぶことにするが、服部氏の論文に言及する場合括弧を付して「オイロト」として使用する。しかしこれはウールトと同義である。

3) ウールト方言に触れた記述として服部氏以前にはPoppe(1932)がある。

“Was die Cipčün und die Ölöt des Bargugebietes betrifft, so kann über ihre Sprache noch nichts gesagt werden.” (p.308)とあり、ウールト(Ölöt)の言語に就いて当時は何も知られていなかったようである。

4) ウのbortʃɔ:『豆』であるが、蒙古文語やハルハ方言に見られる語末の子音がバヤラ氏にはない。孫(1990, p. 171)によると16の蒙古語諸方言中、蒙古文語(-γ)に対応する語末子音の無い方言はダグール方言とトンシャン方言の2方言のみである。バヤラ氏のbortʃɔ:という音形は蒙古語諸方言の中にあっては比較的特異なものと言うことが出来る。この語に就いてはダグール方言からの借用語ではないかとの報告をバヤラ氏より得ており一つの参考とはなる。なお仲(1982)に拠ってもダグール方言で『豆』はbortʃooである(p. 96)。

5) 「iの折れ」の定義はPoppe(1956)による。即ち “The breaking of \*i is the assimilation of this vowel in the first syllable by the vowel of the second syllable.” (p.43)

## 第2部 基礎語彙

語彙の配列およびその体裁は、比較の便宜のため、栗林(1989)に従った。1990年の人口統計によると、ホロンバイルのウールト人は169戸、751人であるという(燕京、清華、北大1950年暑期内蒙古工作調査團編1997;p.289)。本調査は日本の留学生を対照に行ったものである。条件のよいインフォーマントによる中国側の言語調査が公刊されることを望む。

左から「蒙古文語」、「バヤラ氏のウールト方言」、「漢語」、「日本語」となっている。

### 〈 a 〉

ab-	abax	「拿」	取る
abu	a:b	「父親」	お父さん
* バヤラ氏の父親はadza:(文語aĵiya)を使う			
ači-	atfix	「装」	(車などに荷物を)積む
ačiya(n)	atfa:	「貨物」	荷物
* gandzag(文語γanĵuγa(n))(馬の背の)荷駄			
adali	ɛdl	「相同」	同じ
adqu	atag	「一把」	一握り
aduγu(n)	ado:	「馬」	ウマ
aduγusu(n)	adgo:s	「牲畜」	家畜
* 聞き分けの悪い家畜等を罵るときにも使用する			
ayta	axt	「驢馬」	去勢ウマ
ayudam	o:dom	「寛大」	広大な
ayula(n)	o:l	「山」	山
ayulĵa-	o:ldzax	「見面、遇見」	会う、出会う

aγur	o:r	「蒸気、怒氣」	湯気、怒り
aγušgi(n)	o:fig	「肺」	肺
aγuu	ago:	「偉大」	偉大な
* o:dom(文語 aγudam) 広大な。urguŋ(文語 örgen) (幅が)広い			
aǰil	adzil	「工作」	仕事
aǰirγa(n)	adzrag	「種馬」	種ウマ
ala	al	「胯股、褲襠」	股、ズボンの股上
ala-	alax	「殺」	殺す
alay	alag	「雑色」	雑色の
alaya(n)	alag	「手掌」	手のひら
alda	ald	「度」	両手を広げた長さ
alda-	aldax	「失掉」	(盗まれたり騙されたりして)失う
aldara-	aldarax	「解開」	ほどける
ali(n)	ɛlʲ	「哪個」	どれ
alima→pinggüwe		リンゴ	
alqu-	alxax	「走」	歩く
* ʃoxʃix(šoyσι-) 早足で歩く			
alqum	alxom	「歩」	歩み
alta(n)	alt	「金子」	金
aluqa(n)	alx	「錘子」	槌
ama(n)	am	「嘴」	口
amasar	amsar	「蓋子」	ふた
ami(n)	ɛm	「生命」	生命
amidu	ɛmd	「活的」	生きている
amsa-	amsax	「嘗嘗」	味わう
amta	amt	「滋味」	味
amtala-	amtlax	「嘗味道」	味をみる
amur	amar	「平安、簡單」	平安(な)、簡單(な)
amura-	amrax	「休息」	休む
amurqan	amarxaŋ	「簡單的」	簡単な

angya-	aŋkax	「渴」	喉が渴く
* onda:sax(文語umdayas-)、とも言う			
angyayi-	aŋga:x	「張開」	(口や傷口などが)開く
ani-	ɛnix	「閉眼」	目を閉じる
anʃisu(n)	andʒis	「犁」	すき(農機具)
aqɑ	axa:	「哥哥」	兄
arad	ard	「人民」	人民
araya	ara:	「臼齒、輪齒」	奥齒、齒車の齒
araki(n)	ɛrx	「酒」	酒
aral	aral	「車轆」	車の長柄
arasu(n)	ars	「皮子」	皮
arba(n)	arab	「十」	10
arɣɑ	arag	「方法」	方法、手段
arɣal	argal	「乾牛糞」	乾燥させた牛の糞
ariyun	arʲo:ŋ	「清潔」	清潔な
ariyatan	arʲa:taŋ	「野獸(喰肉的)」	(肉食)けもの
aru	ar	「背後」	背後
asayu-	aso:x	「問」	問う
asqa-	asxax	「撒(撒布)」	撒く
ayaya(n)	ajig	「碗」	お椀
ayil	ɛ:l	「家、人家」	アイル(家族集団)
ayilč̣in	ɛ:ltʃiŋ	「客人」	客
ayu-	ɛ:x	「怕」	恐れる

〈 b 〉

baɣɑ	bag	「小」	小さい
baɣa-	ba:x	「拉屎」	大便(糞)をする
baɣasu(n)	ba:s	「屎」	大便、糞
baɣatur	ba:tar	「英雄」	英雄

bayu-	bo:x	「降」	下がる、落ちる
bal	bal	「蜂蜜」	はちみつ
bara-	barax	「完」	終わる
barayun	baro:n	「西邊、右邊」	西、右
bari-	berix	「捉」	掴む
bars	bar	「老虎」	トラ
basa	bas	「又、再」	また
bataγana	batxana:	「蒼蠅」	ハエ
batu	bato:	「強固（人名）」	人名

\* bux(文語 böke)堅固な、強固な

bayan	bajin	「富裕」	裕福
bayi-	bε:x	「有、在」	ある、いる
belbesün	bɛlɛmsɛn	「寡婦」	未亡人
belen	bɛlɛn	「現成的、準備好的」	できあいの、準備でき た
bergen	bɛrgɛn	「嫂子」	兄嫁
beri	bɛr	「媳婦」	嫁
beye(n)	bɛj	「身體」	身体
bi	bi:	「我」	私
biči-	bitʃix	「寫」	書く
bičig	bitʃig	「書」	書物
bide(n)	bidɛn	「我們」	私たち
bilegüü	bɛlɛ:	「磨石」	砥石
bilüčüg	bʲɛlsag	「戒指」	指輪
bir	bi:r	「筆」	ペン等の総称
bitegei→buu~		するな	
bitegüü	bɛtɛ:	「封閉的」	閉じた
bodu-	bɔdɔx	「想」	考える
boγu-	bɔ:x	「包紮、捆」	巻く、縛る
boγuni	bɔgɔn	「矮、低、短」	低い、短い
bol-	bɔlɔx	「成」	成る

boru	bɔr	「灰色」	灰色
boruɣa(n)	bɔrɔ:	「雨」	雨
bos-	bɔsɔx	「起來」	起きる
bosuɣa→erike(n)		敷居	
bögelji-	bɜ:ldʒix	「嘔吐」	吐く
bögere	bɜ:r	「男子的生殖器官」	男性の生殖器
* dɔtɔr bɜ:r 腎臓			
bögesü(n)	bɜ:s	「蝨子」	シラミ
bögse(n)	bɔxs	「屁股」	しり
böke	bɔx	「堅實」	堅固な、強固な
bökü(n)	bɔx	「駝峰」	ラクダのこぶ
budaɣa(n)	boda:	「谷物」	穀物
* saga:ŋ boda: 米			
budu-	bodɔx	「塗」	塗る
buduɣ	bodɔg	「塗料」	塗料
buɣu	bog	「鹿」	シカ
bula-	bolɔx	「埋」	埋める
bulaɣ	bolɔg	「泉」	泉
buliya-	bola:x	「搶奪」	奪う
bulung	bolɔŋ	「角落」	隅
buqa	box	「種公牛」	種ウシ
burčuy	bɔrtʃɔ:	「豆」	マメ

\* バヤラ氏はダグール語からの借用とする。孫竹(1990;p.171)

によると、達斡爾語 bɔrtʃɔ:、東郷語 putʃa とある

buruɣu	boro:	「錯誤」	間違い
busu	bif	「不是」	～でない
buu	bɔ:	「勿、不要」	～するな
büdügün	bɔdɔ:ŋ	「粗大」	粗大な
büliyen	bɔlʃɜ:ŋ	「微温」	ぬるい
bürgüd	bɔrgüd	「鷹」	タカ
büse	bɔs	「蒙古袍的腰帶」	モンゴル服の帯



\* tɜlɜgɜ:(文語 telege)ベルト

bütü-	bütux	「完成」	完成する
bütün	büt'ʉ:ŋ	「完整」	完全な

<č>

čabči-	tʃabtʃix	「砍、眨眼」	(木などを)ぱっさり切る、 まばたきする
čad-	sadax	「飽」	満腹する
čay	sag	「時間、鐘表」	時間、時計
čayan	saga:ŋ	「白」	白い
čayasu(n)	sa:s	「紙」	紙
čamča	sams	「夏天用的蒙古袍」	夏用の薄手の蒙古服
čarčaqai	sarsandag	「蝗虫」	バッタ、イナゴ
času(n)	sas	「雪」	雪
čayi-	se:x	「發白」	白くなる

\* ur se:x空が白む

čečeg	sɜsɜg	「花」	花
čerig, čirig	tʃirig	「兵」	兵士
či	tʃi:	「你」	おまえ
čida-	tʃɛdax	「能、會」	できる
čigeĵi	tʃɜ:dɜ	「胸脯」	胸
čigigde-	tʃi:gdɜx	「浸濕」	湿る
čiki(n)	tʃix	「耳朵」	耳
čiki-	tʃixɜx	「塞入」	詰め込む
čilayu(n)	tʃolo:	「石頭」	石
čilüge(n)	tʃʉlɛ:	「空閑」	ひま
čimüge(n)	tʃimɜg	「骨髓」	骨髓
čina-	tʃɛnax	「煮」	煮る
čingya	tʃɛŋg	「緊」	きつい

č̣inua	tʃɔn	「狼」	オオカミ
č̣ir-	tʃirix	「拉」	引く
č̣isu(n)	sos	「血」	血
č̣ögen	sə:ŋ	「少」	少ない

〈 d 〉

daba-	dabox	「越過」	越える、追い越す
dabaɣa(n)	daba:	「嶺」	峠
dabqur	dabxor	「雙重」	重なった
dabusang, dabusay	dabsag	「膀胱」	膀胱
dabusu(n)	dabs	「鹽」	塩
daya-	dagax	「跟随」	従う
dayaɣa(n)	da:g	「二歳馬」	二歳馬
dayara-	da:rax	「受凍」	凍える
dayari	dɛ:r	「鞍傷」	ウマの鞍傷
dayari-	dɛ:rɛx	「路過」	経過する
dayu(n)	do:	「聲音」	音、声
dayuu	do:	「歌」	歌
dayuriya-	dora:x	「仿效」	まねる
dayus-→bara-		終わる	
dala(n)	dal	「七十」	70
dalai	dalɛ:	「大海」	海
dalu	dal	「肩胛骨」	肩胛骨
darasu(n)	dars	「埋在地下的老酒」	地面の下に長期間ねかせた酒
daru-	darax	「壓」	圧する
debel	dɜ:l	「冬天用的蒙古袍」	冬用の厚手の蒙古服
		* sams(文語 č̣amč̣a)	夏用の薄手の蒙古服
debse→toqum			鞍ぶとん

debte-            dɜbtɜx      「泡」                      水に浸ける、水でふやける

\* nɜrɜx(文語 nor-)濡れる。 tʃi:gdɜx(文語 čigigde-)湿る

degege → γoqa 鈎

degere	dɜ:r	「上面」	上
degēsü(n)	dɜ:s	「繩子」	繩
degüü	dɜ:	「弟弟、妹妹」	弟、妹
del	dɜl	「馬鬃」	ウマのたてがみ
deleng	dɜlɜŋ	「乳房(動物的)」	(動物の)乳房
deligüü	dɜlʲɜ:	「脾臓」	脾臓
doɣul	dɜɣɜl	「腐蹄病」	蹄の間が傷等で化膿する病氣
doɣulang	dɜɣɜlɜŋ	「跛子」	びっこ
doɣula-	dɜɣɜlɜx	「跛行」	びっこをひく
doliya-	dɜlʲɜ:x ~ dɜlɜ:x	「舔」	なめる

\* バヤラ氏は dɜlʲɜ:x をブリヤート語の影響であるという。

孫竹(1990:p.224)によると、蒙古語陳巴爾虎及び布利亞特に doljo:x とある

doluɣa(n)	dɜlɜ:	「七」	7
dotura	dɜtɜr	「里面」	内側、なか
doura	dɜ:r	「下面、低」	下、(温度、成績等が)低い
döči(n)	dɜtʃ	「四十」	40
dörbe(n)	dɜrɜb	「四」	4
dörbelʲi(n)	dɜrbɜrdʒiŋ	「四方的」	四角形の
dörüge	dɜrɜ:	「鐙」	あぶみ(馬具)
dösi	dɜʃ	「碓子」	金床
dulayan	dola:ŋ	「暖和」	暖かい
dumda	domd	「中間」	中間
dura(n)	dɜr	「愛好」	好み
dügür-	dɜ:rɜx	「満」	満ちる

dülei            xɔŋgɔ:      「蕁子」            つんぼ  
 \* 書面語として dülɜ: がある。孫竹(1990;p.244)によると、達  
 斡爾語に kongo: とある  
 düleyire-        xɔŋgɔ:      bɔlɔx 「變蕁」        つんぼになる

〈 e 〉

ebčigü(n)        ɜbtʃu:      「胸骨」            胸骨のあたり  
 ebed-            ɜbdɜx      「疼痛」            痛む  
 ebedčün         ɜbtʃin      「病」              病気  
 eber             ɜbr         「犄角」            角  
 \* uxri:n ɜbrʃig (ウシの角のように) 仲の良い男の友人  
 ebesü(n)        ɜbs         「草」              草  
 ebüdüg          ɜbdɜg      「膝蓋」            膝  
 ebül             ɜbl         「冬天」            冬  
 ečengkei → yandun やせ衰えた。ɜtʃinɜ: は書面語  
 eči- → oči- 行く  
 ede              ɜdɜŋ      「這些人」         これらの人  
 edeger          ɜdgɜ:r     「這些」            これら  
 edegere-        ɜdɜgɜrɜx 「痊愈」            (病気が) 治る  
 edüge → odu いま、現在  
 edür             ɜdʉr      「白天、日子」    昼間、日  
 ege-             ɜ:x         「烤」              (火などで手を) あぶる  
 \* ʃarax (文語 sira-) (火で肉などを) あぶる、焼く  
 ʃita:x (文語 sitaya-) (紙などを) 燃やす  
 xala:x (文語 qalaya-) (牛乳などを) 暖める  
 xata:x (文語 qataya-) (太陽などで) 乾かす  
 egeči            abdɜa      「姐姐」            姐  
 \* バヤラ氏はブリヤート語とする。孫竹(1990;p.254)によると  
 蒙古語布利亞特は əgʃ である。他の地点にも abdɜa に対応する

音形はない

egüde(n)	u:d	「門」	ドア、出入り口
egüle(n)	u:l	「雲」	雲
egür	u:r	「巢」	巢

\* nɜg u:ri:ŋ xuŋ(1つの巢の人)同じ生まれ年の人

eji	ɛbɛ:~idzi:	「母親」	お母さん
-----	------------	------	------

\* バヤラ氏はidzi:をブリヤート語、ɛbɛ:をウールト語とする。

孫竹(1990;p.247)によると蒙古語布利亞特にəzi:があり、達斡爾語にəwə:がある

elige	ɜlig	「肝藏」	肝臓
eliye	ilɜ:	「老鷹」	トビ
eljiige(n)	ɜldɜig	「驢」	ロバ
em	ɜm	「藥」	薬
emči	ɜmtʃ	「醫生」	医者
eme	ɜm	「雌性」	雌
emegel	ɜmɜ:l	「鞍子」	鞍
emegen	xuŋʃiŋ ɜ:dɜ	「老太婆」	(血縁関係のない)お婆さん

\* tɛ:tɛ:父方の祖母(漢語の太太か)。naxs idzi:母方の祖母。バヤラ氏はnaxs idzi:をブリヤート語とする。

孫竹(1990;p.505)によると蒙古語陳巴爾虎nagas idzi:、布利亞特nagas izi:とある

emkü-	uŋkɜx	「含、銜」	口に含む、口にくわえる
-------	-------	-------	-------------

emüne	ɜmɜn	「南邊、前邊」	南、前
-------	------	---------	-----

\* ɜmɜnとordの両者があるが、主には、ord(文語uridu)を用いる

emüs-	uɜsɜx	「穿、戴」	着る、かぶる
ende	ɜnd	「這裡」	ここ
ene	ɜn	「這個」	これ
erdem	ɜrdɜm	「學問、技巧」	学問、技巧
ere	ɜr	「雄性」	雄

ergi	ʒrʒg	「岸、崖」	岸、崖
ergü-	ʉrgʉx	「擧」	持ち上げる
eri-	ʒ:rʒx	「尋找」	捜す
erike(n)	ʒrx	「門檻、念珠」	敷居、数珠

\* 数珠はma:n<sup>j</sup>とも言う。バヤラ氏はma:n<sup>j</sup>をブリヤート語とする。孫竹(1990;p.270)によると蒙古語布利亞特はərx、土族語にmaneがみえる。

erke	ʒrx	「權利」	権力
erte(n)	ʒrt	「早、早晨」	早い、朝
eske-	ʒsxʒx	「剪裁」	(服の生地などを)裁断する
eyimü	i:m	「這樣的」	このような

### 〈 γ 〉

γadana	gadza:	「外面」	外
--------	--------	------	---

\* 孫竹(1990;p.277)によると、蒙古語陳巴爾虎gadza:、布利亞特gaza:とある。

γaɣar	gadzr	「土地、地」	土地、地面
γal	gal	「火」	火
γalayʉ(n)	galo:	「鵝」	ガチョウ
γalɣayʉ	galdzo:	「瘋狂」	気がふれた
γalɣayʉra-	galdzo:rox	「患瘋狗病」	狂犬病になる
γanɣyʉa(n)	gandzag	「馬鞍上の皮梢繩、馱子」	(鞍につけた荷物 物をくくり付ける) 革紐、 荷馱
γaqai	gaxa:	「猪」	ブタ

\* xʒ:ri:ŋ gaxa:イノシシ

γar	gar	「手」	手
γar-	garx	「出」	出る
γasiyʉ(n)	gafo:ŋ	「苦」	にがい、苦しい

γomuda-	gomdox	「埋怨」	恨む
γoqa	gɔxɔ:	「鉤子」	鉤
γoruqa	gɔrx	「小溪」	小川
γoul	gɔl	「河、重要的、中心的」	川、大事な、中心の
γuči(n)	gotʃ	「三十」	30
γulir	gojir	「面粉」	小麦粉
γurba(n)	goro:	「三」	3
γutul	gotl	「靴子」	長靴
γuwa	gɔj	「美麗」	美しい

\* 孫竹(1990;p. 303)によると、蒙古語東蘇尼特 gojo、都蘭 goj がある。

γuya	goj	「大腿」	ふともも
------	-----	------	------

### 〈 g 〉

gedesü(n)	gɔdɔs	「肚子」	腹
gegege(n)	gɔgɔ:ŋ	「明亮」	明るい
gegegere-	gɔgɔ:rɔx	「天亮」	夜が明ける
gegü(n)	gɔ:	「母馬」	雌ウマ
geʃige	gɔdɔig	「頭髮」	髪の毛

\* us(文語 üsü(n))毛、gurusɔŋ gɔdɔig 弁髪

gem	gɔm	「毛病」	欠陥
ger	gɔr	「家、房屋」	家、住まい

\* ɜrgɔ: gɔr 蒙古包

gerel	gɔrɔl	「光」	光
-------	-------	-----	---

geyičün→ ayilčün 客

giški-	gɔʃgɔx	「踏」	踏む
gölüge	gɔlɜg	「狗崽」	子イヌ

\* nɔxɔiŋ gɔlɜg 畜生め(罵言)

görügesü(n)	gurus:	「野獸(喫草的)」	(草食の)けもの(シカの)
-------------	--------	-----------	---------------

類)

\* ar<sup>h</sup>a:taŋ(文語ariyatan)(肉食の)けもの

güŋege	gudzɜ:	「瘤胃」	反芻動物の胃袋の一部
gün	gɜ:ŋ	「深」	深い
güyü-	gɜjix	「跑」	走る

< i >

iče-	itʃix	「害羞」	恥じる
ide-	idɜx	「喫」	食べる
idegeri, idege	idɜ:	「膿」	膿
ilaya(n)	ila:	「蚊子」	カ(蚊)

\* batxana:(文語batayana)ハエ

ilegüü	ilɬ:	「多余」	余分な
ilya-	jɛlgax	「區別」	区別する
imaya(n)	jama:	「山羊」	ヤギ
inggi-	i:gɜx	「這樣做」	こうする

\* 孫竹(1990;p.411)によると、蒙古語布利亞特i:gəxとある

iniye-	inɜ:x	「笑」	笑う
iniyedüm	inɜ:dɜm	「笑話」	笑い話
ir	ir	「刀刃」	刃
ire-	irɜx	「來」	来る
isegei	iʃgɜ:	「氈子」	フェルト
isige(n)	iʃig	「山羊羔」	子ヤギ
iskül-	ɜʃgɜlɜx	「踢」	蹴る

< j >

jabaj̆i	dʒɛbdɜ	「嘴角」	口の端、口もと
---------	--------	------	---------



ḡabsar	dzabsar	「縫隙」	すきま
ḡayar	dza:r	「麝香」	麝香
ḡayu(n)	dzo:	「百」	百
ḡayu-	dzo:x	「咬」	噛む
ḡaḡil-	dʒedʒilix	「咀嚼」	咀嚼する
ḡalaya	dzala:	「纓子」	房飾り
ḡalayu	dzalo:	「年輕」	若い
ḡalayaḡur	dzalgo:r	「接加物」	接合器
ḡalyasu(n)	dzalga:s	「接頭兒」	つなぎ目
ḡalgi-	dzelgex	「噓」	飲み込む
ḡalqayu	dzalxo:	「懶惰」	怠けた
ḡam	dzam	「道路」	道
ḡang	dzaḡ	「性格」	性格
ḡanggid-	dzeḡgedex	「打結」	(紐などを)結ぶ
ḡaraya	dzara:	「刺猬」	ハリネズミ
ḡaru-	dzarax	「指使」	人にやらせる
ḡasa-	dzasax	「修理」	修理する
ḡayaya(n)	dzaja:	「命運」	運命
ḡegü-	dzæ:x	「佩帶」	身に付ける
ḡegüde(n)	dzæ:d	「夢」	夢
ḡegün	dzæ:ḡ	「東邊、左邊」	東、左
ḡegüü	dzæ:	「針」	針
ḡiya-	dza:x	「教學」	教授する

\* sorga:x(文語 surya-) 教え諭す

ḡiyasu(n)	dzaxs	「魚」	魚
ḡiyura-	dzo:rox	「攪拌、髒」	かき混ぜる、汚す
ḡigii-	dʒi:x	「伸直」	(自分の体などを)伸ばす
ḡil	dʒil	「年」	年
ḡiluḡa	dʒɔɔ:	「繩繩」	馬車の手綱
ḡira(n)	dʒer	「六十」	60
ḡiryuḡa(n)	dzorga:	「六」	6

ĵiruġa	dʒɔɾɔ:	「溜躑的」	側対歩の
ĵirūke(n)	dzɚrx	「心臓」	心臓
ĵisū(n)	dzɚs	「相貌、顔色」	容貌、色
ĵobalang	dzɔblɔŋ	「苦難」	(病気や生活上の)困難

\* xɚtʃir(文語 kũčir)難しい

ĵočin→ ayilčin客

ĵöge-	dzɚ:x	「搬運、搬家」	運ぶ、引越す
-------	-------	---------	--------

\* nɚ:x(文語 negü-)(雲などが)移動する、引越す

ĵögelen	dzɚ:lɜŋ	「軟」	柔らかい
ĵuĵayan	dzodza:ŋ	「厚」	厚い
ĵula	dzol	「佛燈」	灯明
ĵulĵaya(n)	dzoldzog	「崽子」	動物の子
ĵun	dzon	「夏天」	夏
ĵüg	dzɚg	「方向」	方向

## 〈 k 〉

kebte-	xɜbtɜx	「躺」	横になる
kedü(n)	xɜd	「幾個、多少」	幾つ
kedüi	xɜdi:	「幾個、多少」	幾つの
kegere	xɜ:r	「荒野」	原野
kei	xi:	「氣」	空気、気体
keĵiye	xɜdzɜ:	「什麼時候」	いつ
kele(n)	xɜl	「舌頭、語言」	舌、言葉
kele-	xɜlɜx	「説」	話す
kelegei	xɜlgɜ:	「口吃」	どもり
kemeli-	xɜmɜx	「啃」	かじる
ken	xɜŋ	「誰」	だれ
kenggerge(n)	xɜŋgɜrɜg	「鼓」	太鼓
kerči-	xɜrtʃix	「切」	(包丁などで)切る

keriye(n)	x3r3:	「烏鴉」	カラス
*カラスはxar x3r3:とも言い、こちらの方が常用される			
keseg	x3s3g	「部分」	部分
keüked	xu:xud	「孩子」	子供
keüken	xu:x3ŋ	「姑娘、女兒」	娘
ki-	xi:x	「做」	する
kilbar→ amurqan		簡単な	
kimusu(n)	xoms	「指甲」	爪
kirayü(n)	x <sup>j</sup> ero:	「霜」	霜
kirüge	xur3:	「鋸」	のこぎり
kituğa	xotog	「刀子」	ナイフ
köbçi	xubtʃ	「弓弦」	弓のつる
köbüng	xubunŋ	「棉花」	綿
ködel-	xudl3x	「動」	動く
kögege-	xo:x	「追」	(獲物などを)追う
kögesü(n)	xo:s	「泡沫」	泡
köke	xux	「藍」	青い
kökege	xuxo:	「布谷鳥」	カッコー
kökü(n)	xux	「乳房(人的)」	(人の)乳房
kökü-	xuxux	「喫奶」	乳を吸う
köl	xul	「腿」	足
köl-	xulux	「套車」	ウシやウマに車を付ける
			る
kölüre-	xulr3x	「出汗」	汗をかく
kölüsü(n)	xuls	「汗」	汗
kömüri-	xumr3x	「倒扣」	(茶碗などを)ひっくりか
			えす
kömüske(n)	xums3g	「眉」	眉
köndelen	xundl3ŋ	「横的」	横たわった
könggen	xunŋg3ŋ	「輕」	軽い
könjile(n)	xundzil	「被子」	掛布団

könüg	xʉnɜg	「水桶」	水おけ
körü-	xʉrʉx	「變涼」	(物が)冷える
kötül-	xʉtlɜx	「牽」	(家畜などを)引き連れる
küčir	xʉtʃir	「難的」	難しい
küčü(n)	xʉtʃ	「力量」	力
küisü(n)	xʉis	「肚臍」	へそ
küiten	xʉitɜŋ	「冷」	寒い
küitere-	xʉitɜrɜx	「變冷」	(天候が)寒くなる
küʃi	xʉdɜ	「香」	香(こう)
küʃügüü	xʉdzʉ:	「脖子」	首
kümün	xʉŋ	「人」	人
kündü	xʉnd	「重」	重い
künesü(n)	xʉns	「食糧」	食料
kür-	xʉrʉx	「到達」	着く
kürge-	xʉrgɜ:x	「送」	送る
kürgen	xʉrgɜŋ	「女婿」	婿
kürʃe(n)	xʉrdz	「鉄鍬」	スコップ
küü	xʉ:	「兒子、男孩」	息子、男の子

〈 l 〉

longqu	lɜŋx	「瓶子」	瓶
luuqa→nuuqa		目やに	

〈 m 〉

mayaʃi-	ma:dɜix	「撓」	搔く
mayu	mo:	「壞」	悪い
mayuda-	mo:tox	「變壞」	悪くなる

mal	mal	「牲畜」	家畜
malayai	malxa:	「帽子」	帽子
malč̣in	maltʃiŋ	「牧民」	牧民
malta-	maltax	「挖」	掘る
maltayur	malto:r	「耙子」	まぐわ
manang	manaŋ	「霧」	霧
manglai	maŋlae	「冠軍」	優勝、第一位
mangnai	maŋna:	「前額」	額
maryasi	marga:ʃ	「明天」	明日
marta-	martax	「忘記」	忘れる
mayila-	mɛ:lɛx	「羊叫」	(ヒツジが)鳴く
mede-	mɛdɜx	「知道」	知る
melekei	mɛlxɜ:	「蛙」	カエル

\* moroŋ mɛlxɜ: トノサマガエル

milaya → tasiyur ウマの鞭

mingya(n)	m <sup>j</sup> ɛŋg	「千」	千
miqa(n)	max	「肉」	肉
modu(n)	mɔd	「樹木、木頭」	木
moyai	mɔgɔ:	「蛇」	ヘビ
mongyul	mɔŋgɔl	「蒙古」	モンゴル
moquya → muqur		鈍い、切れ味が悪い	
mori(n)	mɔr	「馬」	ウマ
mögere-	mɔ:rx	「牛叫」	(ウシが)鳴く
mögeresü(n)	mɜgɜ:rs	「軟骨」	軟骨
mölkü-	mɔlxɜx	「爬行」	這っていく
mön	mɔŋ	「是」	～である
möndür	mɔndur	「雹子」	雹
mönggü(n)	mɔŋg	「銀子」	銀
mör	mɔr	「脚印、痕跡」	足跡、跡
mören	mɔrɔŋ	「江」	大きな川
mörgü-	mɔrgɜx	「磕頭」	ぬかずく

mörü(n)	mɯr	「肩膀」	肩
mösü(n)	mɯs	「冰」	氷
muqur	moxor	「鈍」	鈍い、切れ味が悪い
murui→muskiyu		曲がった	
muski-	moʃox	「擰」	ねじる、まわす
muskiyu	moʃxa:	「灣曲」	曲がった

〈 n 〉

nabči(n)	nabtʃ	「葉子」	葉
nayaču	naxs	「母親的弟妹」	母親の弟と妹
	*naxs a:b	母親の兄、	naxs ɜ:dʒ 母親の姉
nayad-	na:dax	「玩」	遊ぶ、～をする
nayur	no:r	「湖」	湖
naima(n)	ne:m	「八」	8
namur	namar	「秋天」	秋
nara(n)	nar	「太陽」	太陽
narasu(n)	nars	「松樹」	松
narin	nerεŋ	「細」	細かい、細い、狭い
nasu(n)	nas	「年歳」	年齢
naya(n)	naj	「八十」	80
nayitaya-	ne:tε:x	「打喷嚏」	くしゃみをする
nege-	nɜ:x	「打開」	開ける
negü-	nɯ:x	「搬家、移動」	引っ越す、(雲など)移動する
neke-	nɜxɜx	「織」	織る、編む
neme-	nɜmɜx	「加」	加える
nerε	nɜr	「名字」	名前
ničügün	nɯsɜɯŋ	「裸體的」	裸の
nidunun	nʲεdnaŋ	「去年」	去年

nidurɣa	nodrog	「拳頭」	こぶし
nidū(n)	nɯd	「眼睛」	目
nidū-	nɯdɯx	「搗」	つく、つき砕く
niɣu-	no:x	「隠藏」	隠す
niɣur	no:r	「臉、表面」	顔、(物の)表面
nige(n)	nɜg	「一」	1
nilbu-	n <sup>j</sup> olmoɣ	「吐唾沫」	唾を吐く
nilbusu(n)	n <sup>j</sup> ɛlmos	「眼泪」	涙
nimgen	nimgɜŋ	「薄」	薄い
niqu-	noxox	「揉、和」	こねる
niruyu(n)	norɔ:	「脊梁、腰」	背中、腰
nis-	nisɜx	「飛」	飛ぶ
nisu(n)	nos	「鼻涕」	鼻水
no-	no:x	「打中」	当たる、命中する
noɣtu	noxt	「籠頭」	(ウマの)くつわ、おもが い
noɣuɣa(n)	nɔgɔ:	「蔬菜」	野菜
noɣuɣan	nɔgɔ:ŋ	「綠色」	緑色
noɣusu(n)	nɔ:s	「羊毛」	羊毛
nom	nɔm	「書」	本
nomuqan	nɔmɣɔŋ	「老實」	おとなしい
noqai	nɔxɔ:	「狗」	イヌ
nor-	nɔrɔx	「淋濕」	濡れる
noyan	nɔjin	「長官」	長官
noyir	nɔ:r	「睏」	眠気
noyitad-→nor-			濡れる
noyitan	nɔ:tɜŋ	「潮濕的」	濡れている
nögüge	nɯgɔ:	「別的」	他の
nögügedür	nɯgɔ:dɜr	「后天」	明後日
nökür	nɯxɯr	「朋友」	友人
nuɣusu(n)	nogs	「脊髓、鴨子」	脊髓、アヒル

numu(n)	nom	「弓」	弓
nura-	norox	「倒塌」	倒れる、崩れる
nutuγ	notog	「故郷」	故郷
nuuqa	no:x	「眼眇」	目やに
nüke(n)	nɨx	「窟窿」	穴

〈 o 〉

obuγa(n)	ɔbɔ:	「敖包」	オボー（石の塚）
* 小高い山の頂上に石を積んで作った祭壇			
oči-	ɔtʃix	「去」	行く
odu	ɔdɔ:	「現在」	今
odu(n)	ɔd	「星」	星
oytul-	ɔtlɔx	「割断」	切断する
oyuli	ɔil	「鑿子」	(木を削る)ちょうな
oi	ɔi	「森林、周年」	森、1周年
ol-	ɔlɔx	「得到、伐到」	得る、見つける
olan	ɔlɔŋ	「多」	多い
olbuγ	ɔlbɔg	「墊子」	座布団
olʃa	ɔldz	「利益」	利益
olung	ɔlɔm	「肚帯」	(馬具の)腹帯

\* 孫竹(1990;p.527)によると、蒙古語陳巴爾虎及び布利亞特に  
olom、達斡爾語にolumとある。

olusu(n)	ɔls	「麻」	麻
on	ɔŋ	「年」	年
ongyuča	ɔŋgɔtʃ	「船」	船
onu-→no-		当たる、命中する	
oqur	ɔxɔr	「短」	短い
oriya-	ɔrɔ:x	「繞」	巻き付ける
oru-	ɔrɔx	「進入」	入る



orui	ɔrɔ:	「傍晚、晚上、遅」	夕方、晩、遅い
orun	ɔrɔŋ	「地区」	地域
oyira	ɔir	「近」	近い
oyu-	ɔjɔx	「縫」	縫う

## 〈 Ö 〉

öbür→uridu南、前

öçügedür	ʉtʃigɔɔɔ	「昨天」	昨日
ödken	ʉtxɔŋ	「密、濃」	密な、濃い
ödü(n)	ʉd	「羽毛」	羽毛
ög-	ʉgʉx	「給」	与える
ögede	ɔ:d	「上坡」	上り坂
ögekü(n)	ɔ:x	「脂肪」	脂肪
ölüs-	ʉlsɔx	「飢餓」	飢える
ömüdü(n)	ʉmd	「褌子」	ズボン
öndege(n)	ʉndɔg	「蛋」	卵
öndegele-	ʉndɔglɔx	「下蛋」	卵を生む
öndür	ʉndɔɔ	「高」	高い
öngge(n)	ʉŋg	「顔色」	色
önügedür	ʉnɔ:dɔɔ	「今天」	今日
örgen	ʉrgʉŋ	「寛」	(幅が)ひろい
örgesü(n)	ʉrgɔ:s	「刺」	とげ
öri(n)	ʉr	「債」	負債
örüme	ʉrʉm	「奶皮」	乳脂膜 (牛乳を沸かすと きに出来る油の厚い膜。 食用)
ös-	ʉsʉx	「生長、長價」	生長する、値が上がる
ötü(n)	ʉt	「蛆、毛虫」	ウジムシ、ケムシ

〈 p 〉

pinggüwe      pingø      「苹果」      リンゴ

〈 q 〉

qabar→qamar鼻

qabirya(n)	xεbrεg	「肋骨」	肋骨
qabtayai	xabtga:	「偏平的」	平べったい
qabud-	xabdax	「腫」	腫れる
qabur	xabɔr	「春天」	春
qaçar	xasar	「面頬」	頬
qada(n)	xad	「岩石」	岩石
qadayasu(n)	xada:s	「釘子」	釘
qadu-	xadax	「収割」	刈り取る
qaduɣur	xado:r	「鎌刀」	鎌
qadum	xadam	「岳家、婆家」	妻或いは夫方の家
qaya-	xa:x	「關閉」	閉める
qayal-	xagalax	「打碎」	(コップ等を)粉々に壊す
qayara-	xagarax	「破裂、分裂」	割れる、分裂する
qayučin	xo:tʃiŋ	「旧」	古い
qayur-	xo:rox	「欺騙」	だます
qayur-	xo:rox	「炒」	炒める
qayurai	xo:rε:	「乾燥」	乾燥した
qaǰa-	xadzax	「咬」	咬む
qaǰayar	xadza:r	「馬嚼子和繩繩」	ウマのくつわ及び手綱
qalaya-	xala:x	「加熱」	(牛乳などを)暖める
qalayun	xalo:ŋ	「熱的」	熱い
qaliɣu(n)	xalʲo:	「水獺」	カワウソ

qalisu(n)	xɛls	「外皮」	(豆や魚などの)外皮
qamar	xamar	「鼻子」	鼻
qamčui	xams	「袖子」	袖
qamiya	xa:n	「哪裏」	どこ
qančui→qamčui		袖	
qaniya-	xɛnɛ:x	「咳嗽」	咳をする
qaniyadu(n)	xɛnɛ:d	「咳嗽、感冒」	咳、風邪
qara	xar	「黒」	黒い
qarangyui	xaraŋko:	「黒暗」	暗い
qarbu-	xarbox	「射撃」	射る
qari-	xerix	「返回」	返る、戻る
qariya-	xara:x	「罵」	罵る
qasiya(n)	xafa:	「牲畜圈」	(家畜の)柵、囲い
qataya-	xata:x	「晒乾」	(太陽などで)乾かす
qatayu	xato:	「硬」	硬い
qayiči(n)	xɛ:tʃ	「剪刀」	鋏
qayičila-	xɛ:tʃlɛx	「剪」	鋏で切る
qoduyudu(n)	xɔdɔ:d	「胃」	胃
qoɣula(n)	xɔ:l	「飯食」	食べ物、料理
qoɣulai	xɔ:lɔ:	「嗓子、管兒」	喉、管
qoɣusun	xɔ:sɔŋ	「空的」	空の
qola	xɔl	「遠」	遠い
qolbu-	xɔlbɔx	「聯結」	つなげる
qoli-	xɔlix	「摻合」	混ぜる
qongɣur→quwa		淡黄色の(ウマの色)	
qongqu	xɔŋx	「鈴」	鈴、ベル
qongsiyar	xɔŋʃɔ:r	「喙」	(動物の)口、くちばし
qoni(n)	xɔnʃ	「綿羊」	羊
qori(n)	xɔr	「二十」	20
qormai	xɔrmɔ:	「蒙古袍的腰下部分」	すそ(モンゴル服の腰から下の部分)

qoruqai	xɔrxɔ:	「虫子」	虫
qota(n)	xɔt	「城市」	都市、町
qoura	xɔr	「毒」	毒
qoyar	xɔjir	「二」	2
qoyina	xɔ:ŋ	「后邊、北邊」	後ろ、北
qubčasu(n)	xobsos	「衣服」	衣服
qubiya-	xoba:x	「分配」	分ける
quča(n)	xos	「種綿羊」	種付け用のメンヨウ
quča-	xosox	「狗吠」	(イヌが)吠える。
quda	xod	「親家」	娘や息子が結婚した相手の家族(年長の男性)
qudal	xodl	「谎話」	嘘
qudduy	xodog	「水井」	井戸
qudqu-	xotxox	「攪拌」	かき混ぜる
quyul-	xogolox	「折斷」	折る
quyur	xo:r	「胡琴」	胡弓
qulayai	xolga:tʃ	「賊」	盗賊
qulayayila-	xolga:lax	「偷」	盗む
quluyana	xologoŋ	「老鼠」	ネズミ
qulusu(n)	xols	「竹子」	竹
qura→boruɣa(n)		雨	
quraya(n)	xorog	「綿羊羔」	メンヨウの子
qurdun	xordon	「快」	速い
qurim	xorom	「婚礼」	結婚式
quriya-	xora:x	「収集」	集める
quruɣu(n)	xoro:	「指頭」	(手や足の)指
qusu-	xosox	「刮」	剃る、削る
quwa	xoa:	「淡黄色的(馬)」	淡黄色の(ウマの色)
quyay	xojog	「鎧甲」	よろい

〈 s 〉

sabar	sabar	「洋叉子」	フォーク(畜舎などで用 いる)
sayā-	sa:x	「擠奶」	乳をしぼる
sayu-	so:x	「坐、住」	座る、住む
sayulya→könüg		水おけ	
salaya(n)	sala:	「分枝」	枝、分かれ出た道
salki(n)	sel <sup>j</sup> x	「風」	風
sam	sam	「梳子」	櫛
samla-	samlax	「梳」	櫛でとかす
samna-→samla-		櫛でとかす	
sana-	sanax	「想」	考える
sanaya(n)	sana:	「思想」	考え
saqal	saxal	「胡須」	ひげ
sara(n)	sar	「月亮」	月
sarimsay	soanda:	「大蒜」	にんにく
* soanは漢語の「蒜[suan]」より			
sayin	se:ŋ	「好」	良い
sayiqan	se:xεŋ	「漂亮、美麗」	美しい
següder	su:d3r	「影子、照片」	影、写真
següji(n)	ʃu:d3	「胯骨」	骨盤
segül	su:l	「尾巴」	尾
sere-	s3r3x	「醒」	醒める
serigün	s3rɯ:ŋ	「涼快」	涼しい
sibar	ʃabar	「泥土」	泥
sibüge	ʃ3bg	「錐子」	千枚通し
sidü(n)	ʃud	「牙齒」	歯
sige-	ʃ3:x	「撒尿」	小便をする
sigesü(n)	ʃ3:s	「尿」	小便
siyugiyān	ʃa:ga:ŋ	「熱鬧」	騒がしい

sigüderi	sɯ:dɜr	「露水」	露
sil	ʃil	「玻璃」	ガラス
silü(n)	ʃɯl	「湯」	スープ
silüsü(n)	ʃɯls	「唾沫」	唾
sinaya	ʃɛnag	「勺子」	杓子

\* ウールト方言は xaelago:r であるという。孫竹(1990;p.707)

「勺子」の項に同形の語はない

sine	ʃin	「新」	新しい
singgen	ʃingɜŋ	「稀」	(濃度が)薄い
singgege-	ʃingɜ:x	「消化」	消化する
sira	ʃar	「黄色」	黄色
sira-	ʃarax	「烤」	(火で肉などを)あぶる、 焼く
sirbüsü(n)	ʃɯrbɯs	「筋」	靱帯や腱
sirege(n)	ʃirɜ:	「桌子」	テーブル、机
siri-	ʃirɜx	「納縫」	刺し子に縫う
sirqa(n)	ʃarax	「傷口」	傷口
sirui	ʃɔrɔ:	「土」	土
sirügün	ʃɯrɯ:ŋ	「猛烈」	激しい
sitaya-	ʃita:x	「焼」	(紙などを)燃やす
soytuɣu	sɔxtɔ:	「沉醉的」	酔った
soluɣai	sɔlgɔ:	「左撇子」	左利き
solungya	sɔlŋg	「虹、黄鼠狼」	虹、イタチ
songyu-	sɔŋgɔx	「挑選」	選ぶ
sonus-	sɔnsɔx	「聽」	聞く
soqur	sɔxɔr	「瞎子」	盲人
sormusu(n)	sɔrmsɔg	「睫毛」	まつげ
sögüd-	sɯgdɜx	「跪」	跪く
söni	sɯn	「夜裏」	夜
sösü(n)	sɯs	「胆嚢」	胆嚢
sudasu(n)	sodl	「血管」	血管

suɣu	so:	「腋窩」	脇の下
sula	sol	「松的」	ゆるい
sumu(n)	som	「子彈、箭」	弾丸、矢
sur-	sorox	「學習」	学ぶ
sura-→ asayu-問う			
surya-	sorga:x	「教養、教訓」	しつける、教え諭す
sūke	sux	「斧子」	斧
sūme	sūm	「寺廟」	寺
sūn	sū ~ us	「奶」	乳
sūnesū(n)	sūns	「靈魂」	魂
sūr	ε:ltε:	「非常好、厲害」	すばらしい、すごい
sūsüg	sudʒug	「信仰」	信仰

〈 s 〉

šaya(n)	ʃaga:	「踝骨」	くるぶしの骨
šayaʃayai	ʃa:dʒε:	「喜鵲」	カササギ
šoysi-	ʃoxʃix	「快步走」	早足で歩く

〈 t 〉

ta	ta:	「您」	あなた
tabi(n)	tεb	「五十」	50
tabu(n)	tao	「五」	5
taya-	ta:x	「猜測」	推測する
tayu-	to:x	「趕」	(家畜を) 駆り立てる
takiya(n)	tεxε:	「鷄」	ニワトリ
tala	tal	「草原」	草原
talbi-)	tεbex	「放下、放開」	置く、放す

tamaki(n)	temx	「烟」	タバコ
tamu-	tɔmox	「搓（繩）」	(繩などを)なう
tangnai	tagna:	「上顎」	上顎
tani-	tenix	「認識」	知る
taqa	tax	「馬掌」	蹄鉄
tara-	tarax	「散」	解散する
tarbaya(n)	tarbag	「早獺」	タルバガン
taryu(n)	taragan	「肥胖」	肥えた
tari-	terix	「種」	種をまく
tarik(i)(n)	terx	「腦子」	脳
tariya(n)	tɛrɛ:~tɛrʲɛ:	「田地」	畑
tasiyur	taʃo:r	「馬鞭子」	ウマの鞭
tasura-	tasrax	「斷」	切れる
tata-	tatax	「拉」	引く
taulai	tole:	「兔子」	ウサギ
tayay	tajig	「拐杖」	杖
tayil-	tɛ:lɛx	「解開」	ほどく
tede(n)	tɔdɔn	「他們」	彼ら
tedui	tɔdɯi	「那些」	それくらい
tege-	tɔgɔx	「那樣做」	そうする
tegege-	tɔ:x	「運載」	運搬する
tegerme	tɔ:rɔm	「磨」	ひきうす
tegsi	tɔxʃ	「平坦的」	平らな
tegü-	tɯ:x	「檢、採集」	拾う、集める
teʃiye-	tɔdɔɔ:x	「喂養」	飼う、養う
temege(n)	tɔmɔ:	「駱駝」	ラクダ
temür	tɯmɯr	「鉄」	鉄
tende	tɔnd	「那裏」	そこに
tere	tɔr	「那、他、她」	あれ、彼、彼女
terg(n)	tɔrɔg	「車」	車
teyimü	ti:m	「那樣」	そのような



tngri	tɜŋgɜr	「天」	天
tobč̣i	tɔbtʃ	「扣子」	ボタン
toɣa(n)	tɔ:	「数目」	数
toɣuɣa(n)	tɔgɔ:	「鍋」	なべ
toɣuri-	tɔ:rɔx	「轉、逛」	回る、ぶらぶらする
toli(n)	tɔlʲ	「鏡子」	鏡
* no:ri:n̩ ʃilの方を常用する			
toluɣai	tɔlxɔ:	「腦袋」	頭
toqu-	tɔxɔx	「鞴鞍子」	鞍をつける
toqui	tɔxɔ:	「肘子」	肘
toqum	tɔxɔm	「鞍墊」	鞍の下に敷くクッション
torya(n)	tɔrɔg	「緞子」	絹
tosu(n)	tɔs	「油」	油
tour	tɔr	「網子、鉄絲」	網、針金
töge	tɔ:	「拵」	指尺(開いた親指と中指の間の長さ)
törü-	tʉrʉx	「出生」	生む、生まれる
törüküm	tʉrxʉm	「娘家」	実家
törül	tʉrʉl	「親戚」	親戚
tuɣul	togol	「牛犢」	子ウシ
tuɣurai	to:rɛ:	「蹄子」	ひづめ
tul-	tolox	「支撐、抵」	支える、寄りかかる
tulyaɣuri	tolgo:r	「柱子」	はしら
tunu-	tonox	「沉澱」	沈澱する
tusa→olʃa利益			
tügükei	tʉ:xɜ:	「生的(不熟)」	生の、熟れてない
tüimer	tʉimʉr	「火災」	火災
tüle-	tʉlʉx	「燒火」	火をたく
tüliye(n)	tʉlɜ:	「柴火」	薪
tülki-	tʉlxɜx	「推」	押す

tüme(n)          tɯm          「萬」          万

〈 u 〉

uĉira-→ ayulĵa-会う、出会う

udayan          oda:ŋ          「慢」          ゆっくりした

uyu-          o:x          「喝」          飲む

uyuruŋ          o:rog          「初乳」          初乳(出産後1週間前後までに出る濃いウシの乳)

uyuta          o:t          「口袋」          袋

ugiya-          oga:x          「洗」          洗う

ukila-          oilax          「哭」          泣く

ula          ol          「脚掌、鞋底」          足の裏、靴底

ulayan          ola:ŋ          「紅」          赤い

uliyasu(n)          ol<sup>ɟ</sup>a:s          「白楊樹」          ポプラ

umba-          ombox          「游泳」          泳ぐ

umdayas-          onda:sax          「渴」          喉が渴く

umta-          ontox          「睡」          眠る

una-          onox          「落下」          落ちる

unaya(n)          onog          「馬駒子」          (一歳の)子ウマ

ungya-          ongox          「放屁」          放屁する

ungyasu(n)→ noŋusu(n)羊毛

ungsi-          onĵix          「閲讀」          読む

uni(n)→ uniyarもや、霞

uniyar          on<sup>ɟ</sup>a:r          「烟霧」          もや、霞

unu-          onox          「騎」          (ウマ、自転車などに)乗る

unuŋa          ona:          「役馬」          乗行・輸送に使うウマ

uqu-→ malta-掘る

uran          oron          「巧(人的技術)」          巧みな、器用な

\* orlig(文語 uraliy)は事物が精緻であること

uri-	orox	「邀請」	招く
uridu	ord	「南邊、前邊」	南、前
urj̄idur	ordʒidor	「前天」	一昨日
urj̄inun	ordʒinoŋ	「前年」	一昨年
urtu	ort	「長」	長い
uruɣu	oro:	「下坡」	下り坂
uruɣul	oro:l	「嘴唇」	唇
urus-	orsox	「流」	流れる
usu(n)	os	「水」	水
utasu(n)	otos	「縫(縫衣服的)」	糸
utu-	otox	「熏」	燻す
utuɣa(n)	ota:	「烟(燒火冒出的)」	煙
uya-	ojox	「拴、綁」	(家畜、本などを)繫ぐ、 縛る

## 〈 Ü 〉

üde	ud	「中午」	正午
üdesi→orui		晚	
üge(n)	ug	「語言」	言葉
ügei	ugæ:	「没有」	無い
ügüle→kele-		語る、話す	
üile	uil	「苦難、行為」	困難、行為
üje-	udʒix	「看」	見る
üj̄ügür	udzɯ:r	「尖端」	先端
üker	uxɯr	「牛」	ウシ
ükü-	uxɯx	「死」	死ぬ
ülede-	uldɜ:x	「剩下」	残す
üliye-	ulɜ:x	「吹」	(笛などを)吹く

ündüsü(n)	ʉndʉs	「根」	根
üne	ʉn	「価格」	値段
ünege(n)	ʉnʒg	「狐狸」	キツネ
ünesü(n)	ʉns	「灰」	灰
ünen	ʉnʒŋ	「眞實」	眞実
üniye(n)	ʉnʒ ʒ:	「乳牛」	乳牛
ünügü(n) → isige(n) 子ヤギ			
ünür	ʉnʉr	「氣味」	におい
ünürte-	ʉnʉrtʒx	「嗅」	嗅ぐ
üre	ʉr	「種子」	種
üsü(n)	ʉs	「毛」	毛
* ʒar ʉs 体毛			
üsüg	ʉsʉg	「字」	字
üsür-	ʉsʒrʒx	「跳」	跳ぶ

## 〈 y 〉

yabu-	ʒɔbɔx	「走、去」	出かける
yabuʒan	ʒɔbgɔŋ	「徒歩」	徒歩
yada- → yadara- 疲れる			
yaʒu(n)	ʒʉ:	「什麼」	何
yaʒuma	im	「東西」	物
yambar	ʒamar	「什麼様」	どんな
yandun	ʒandaŋ	「消瘦的」	痩せ衰えた
yara	ʒar	「瘡」	できもの、かさ
yasu(n)	ʒas	「骨頭」	骨
yeke	ix	「大」	大きい
yere(n)	ʒir	「九十」	90。iはやや緩んだ[I]
yisü(n)	ʒis	「九」	9。iはやや緩んだ[I]
yosu(n)	ʒɔs	「道理」	道理

〈参考文献(発行年順)〉

- Poppe, N. (1932), *Skizze der Phonetik des Bargu-Burjätischen. Asia Major VII 3*, pp. 307-378.
- 服部四郎(1936), 「ホロンバイル地方におけるアルタイ諸民族」『人類学雑誌』51:7, pp. 308-309. (『服部四郎論文集』第1巻. 東京:三省堂. 1986年所収).
- 服部四郎(1937a), 「ホロンバイルの蒙古語」『蒙古学』1, pp. 97-111. (服部四郎論文集』第1巻. 東京:三省堂. 1986年所収).
- 服部四郎(1937b), 「蒙古語の円唇母音とその転写法の由来」『音声学協会会報』47, pp. 5-7. (『服部四郎論文集』第1巻. 東京:三省堂. 1986年所収).
- 服部四郎(1951), 「蒙古語チャハル方言の音韻体系」『言語研究』19. 20, pp. 68-102. (『服部四郎論文集』第2巻. 東京:三省堂. 1987年所収).
- Poppe, N. (1956), *On the So-called Breaking of \*i in Mongolian. Ural-Altäische Jahrbücher 28:1-2*, pp. 43-48.
- Lessing, F. D. et al. 1960(1995), *Mongolian-English Dictionary*. Original edition:1960. Third reprinting:1995. Bloomington.
- 清格爾泰(1979), 「中国蒙古語方言的劃分(下)」『民族語文』1979:2, pp. 108-112.
- 栗林均(1981), 「蒙古語諸方言における語頭\*i音の発展」『一橋研究』6:3, pp. 1-16.
- 仲素純(1982), 『達斡爾語簡誌』北京:民族出版社.
- 小沢重男(1983), 『現代モンゴル語辞典』東京:大学書林.
- 道布(1983), 『蒙古語簡誌』北京:民族出版社.
- 栗林均(1989a), 「モンゴル系諸言語対照基本語彙--中国少数民族語言簡誌叢書の資料による--」『言語文化接触に関する研究』1,

- pp. 153-383. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.  
栗林 均(1989b), 「内蒙古語」 『言語学大辞典第2巻世界言語編  
(中)』 (三省堂), pp. 1426-1434.
- 孫 竹(1990), 『蒙古語族語言詞典』 青海: 青海人民出版社.
- 一ノ瀬 恵(1992), 「内蒙古語チャハル方言におけるI音について」  
『北大文学部紀要』 40:2, pp. 169-188.
- 燕京、清華、北大1950年暑期内蒙古工作調査團編(1997), 『内蒙古  
呼納盟民族調査報告』 呼和浩特市: 内蒙古人民出版社.